



埋文だより

第69号

平成28年 2月26日発行



夕日に染まる石垣



錦江湾を臨む復元大砲



復元大砲と石垣

錦江湾の入口を見守る薩摩の技術

19世紀初頭の薩摩藩近海には、西欧諸国の艦船が頻繁に出没し、対外的な緊張が高まっていました。このような状況に対応するために築かれたのが、藩内各地の沿岸砲台でした。根占砲台も生麦事件後のイギリス艦隊来航に備え、砲台の拡幅構築が行われ、それが現在まで石垣として残っています。対岸の指宿や山川の砲台とともに、錦江湾への艦船の侵入を阻止する目的でしたが、その力を発揮することなく西南戦争を迎え、その役目を終えました。

今年度10月に実施された調査で、砲座の痕跡や石垣の構築方法などがわかってきました。

(2・3ページに関連記事)

目次

- ・ 錦江湾の入口を見守る薩摩の技術…………… 1
- ・ 遺跡詳解…………… 2・3
- ・ 発見！発掘速報…………… 4・5
- ・ 遺跡公開 現地説明会開催…………… 6

いせきしょうかい 遺跡詳解

ねじめほうだいあと 根占砲台跡(南大隅町)

平成27年10月24日(土)に、表紙で紹介した根占砲台跡で現地説明会が開かれました。当日は天気恵まれ、200名を超える多くの方が見学に来られ、幕末という激動の時代に築かれた砲台の威容を肌で感じることができたのではないのでしょうか。ここでは、その遺構について詳しく解説します。



石垣の背面は栗石といわれる十数cmの丸みのある石と土を交互に積み重ねる構造であることが分かりました。



石垣の前面部分の土中には、石垣に接するように多量の花崗岩が見つかりました。石垣の重さを分散させる目的があるかもしれません。



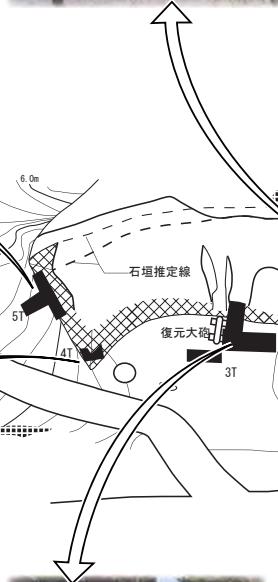
山側から見た遺跡全景(空中撮影)



海側から見た遺跡全景(空中撮影)



石垣の角の最下段には、石垣の重量を支えるために大きな花崗岩を置いてあります。これで、石垣が崩れるのを防いでいたのでしょう。



砲門部分は溶結凝灰岩の切り出し、その他の部分は花崗岩の自然石が主な石材として用いられています。溶結凝灰岩は土中に埋まる部分はあまり加工せず、地表に出ている部分のみ丁寧に加工してあります。

根占砲台跡は、肝属郡 南大隅町 根占辺田にあり、西側は多量の花崗岩からなる海岸をはさんで錦江湾に面し、東側は辻岳山塊の急な崖が迫っています。根占砲台が築かれる前の19世紀初頭の薩摩藩近海には西欧諸国の艦船が頻繁に出没し、対外的な緊張が高まっていました。このような状況に対応するため、当時の藩主である島津斉興は、指宿・山川・佐多・小根占など藩内各地に砲台を築かせました。小根占の砲台は、薩摩藩の中でも初期に築かれた砲台の一つで、弘化4(1847)年に完成しました。文久2(1862)年に生麦事件が起こると、イギリス艦隊の来航に備えて砲台の拡張構築が行われ、現在、台場公園内にある石垣が築されました。

今回の調査の結果、石垣が良好に残っていることが分かったとともに、砲座の痕跡や石垣の構築方法なども把握することができました。一方で、トレンチ調査で検出された石列や多量の花崗岩の性格については不明な点も多く、他の砲台跡との比較や歴史資料との対比などによる解明が待たれます。



海側の石垣は、現代に積み直された部分もありますが、多くは当時のそのままの状態が残っています。

【凡例】
 砲台に伴う石垣
 現代に積み直された石垣



北側の角にも大きな花崗岩が置いてあります。さまざまな大きさの石を上手に組み合わせて強固な石垣を造り上げてあります。



復元大砲付近の調査では、砲座の痕跡の一部が見つかりましたが、現代の造成などによりあまり残っていないことが分かりました。



砲座や砲台関連の施設の有無を調査したところから、石列が見つかりました。これがどのような意味を持つのかは、まだはっきりしていません。また、土層の観察から石垣を組む前に整地を行っていることが分かりました。



溶結凝灰岩…火砕流によって発生した噴出物が高温のまま堆積し、一部が溶けてそのものの重みで圧縮されてきた岩石で、比較的やわらかく加工がしやすい。
 花崗岩…マグマが地下深いところでゆっくり冷えて固まった白っぽい岩石で、結晶が大きく緻密で硬い。

西暦(和暦)	鹿児島・日本のできごと	根占の砲台整備関係
1824(文政7)年	宝島事件(十島)	
1828(文政8)年	異国船打払令の公布	
1837(天保8)年	モリソン号事件(山川)	
1838(天保9)年		小根占の地頭仮屋に大砲一挺を配置
1847(弘化4)年		小根占に砲台建設
1848(嘉永元)年		斉興が五十斤白砲を根占砲台の備砲とするように命じる
1853(嘉永6)年		小根占、大根占の海岸沿い各所砲台を巡視
1862(文久2)年	生麦事件	
1862~1863(文久2~3)年		辺田の砲台の拡張構築
1863(文久3)年	薩英戦争	
1877(明治10)年	西南戦争	政府軍により鹿児島市の各所の備砲が閉鎖される
1968(昭和43)年		辺田の砲台跡が町の史跡に指定
1990(平成2)年		台場公園を整備

発見！発掘速報

今年度、発掘調査が行われている、県立埋蔵文化財センターと（公財）埋蔵文化財調査センターの発掘調査成果の一部を紹介します。



…県立埋蔵文化財センターの発掘調査
…（公財）鹿児島県文化振興財団
埋蔵文化財調査センターの発掘調査



県内初！謎に包まれた中世の大型土坑（地下式坑）を検出



～永吉天神段遺跡（大崎町）～

永吉天神段遺跡では、県内初となる中世の大型土坑（地下式坑）が見つかりました。

地下式坑は、下に向かって堅穴を掘り、その後地下室を掘るもので、断面は長靴の形に似ています。大型で、縦横2m以上、深さは3mを超えるものもあります。

地下式坑は関東で多く発見される中世（戦国時代）の遺構で、九州内では福岡、佐賀、大分、熊本県で数多く見つかっています。

用途としては、①死者を葬るための墓、②僧が、自ら土中に埋まり、死ぬため（土葬）の場所、③物を保管する貯蔵施設、④身を隠すための避難施設等が考えられています。しかし文献等にもほとんど記述がなく、謎の多い遺構です。今のところ本遺跡のものは①が有力ではと考えています。



地下式坑の模式図

なぜこの地に地下式坑が作られたのか、今後調査を重ねて解明していきたいと思います。



巨大な地下式坑



地下式坑の断面のようす

集落跡？縄文人の大きな「環（わ）」

～牧山遺跡（鹿屋市）～

牧山遺跡は鹿屋市の東側に流れる串良川に近い標高約100mの台地上にあります。平成25年度からの調査で、縄文時代早期から弥生時代の生活の跡や中世から近世と思われる道の跡が発見されていました。

今年度の調査では、まず縄文時代後期の土器が帯状に多数出土しました。また、少し離れた場所からは、穴に埋められた土器（埋設土器）や、呪術用と思われる石冠（県内では3例目）も見つかりました。

さらに掘り進めると柱を立てたと思われる穴（柱穴）も帯状に連なって多数見つかりました。柱穴を結びと長方形になるものもあり、建物跡の可能性がります。

そこで、これまでの調査図面を全てつなぎ合わせたところ、柱穴群が直径約80mの円を描くように連なり、更にその外側に土器や石器の遺物群が同心円状に広がることわかりました。埋設土器は柱穴のエリアに、石冠は円の中心近くの内側の遺物・遺構の少ないエリアで発見されました。

もしかすると、ここには広場を丸く囲む村があったのかもしれないね。



石冠



埋設土器



遺跡全景（空撮）

2度の巨大地震の跡

～宮脇遺跡（大崎町）～

宮脇遺跡では、鬼界カルデラの火山噴火（約7,300年前）に誘発された巨大地震に伴う液状化現象の跡が発見されました。

液状化現象の跡と考えられる砂層は、鬼界カルデラの火山噴火の際に積もったアカホヤ火山灰層の下の部分と真ん中の部分に2層堆積しています。液状化現象は、水を含んだ砂質の地層が地震の際に液体のように噴き出す現象です。宮脇遺跡で発見された2つの砂層は、鬼界カルデラ噴火に誘発された地震が2度あったことを裏付けることになりました。

また、宮脇遺跡では縄文時代早期（約9,000年前～約7,300年前）の調理施設と考えられる集石遺構や旧石器時代（約20,000年前）の生活の跡が発見されています。



通常の堆積



アカホヤ火山灰

液状化現象の跡

かごしま遺跡フォーラム2015

～遺跡が語る！奇想が描いた未来～



今年度の「かごしま遺跡フォーラム」が、12月26日（土）に鹿児島県歴史資料センター黎明館で「遺跡が語る！奇想が描いた未来」と題して開催されました。7月5日に、「明治日本の産業革命遺産」がユネスコの世界文化遺産に登録され、鹿児島県からは旧集館、関吉の疎水溝、寺山炭窯跡の3か所がその構成資産となりました。しかし、本県にはこの他にも多種多様な近代化遺産が存在しています。そこで、当埋蔵文化財センターではそれらの遺産にも光を



パネルディスカッション



パネルによる解説



石垣の構造の説明

当てるべく「かごしま近代化遺産調査事業」に着手しました。今回の遺跡フォーラムでは、その事業による発掘調査の成果報告や尚古集成館の松尾副館長の講演、パネルディスカッションとともに、現在発掘調査を行っている鹿児島城跡の調査結果や石垣保全整備事業についての報告がありました。ステージでの発表終了後に鹿児島城跡の調査現場見学も行われ、今年度の調査で発見された、能舞台の跡や西南戦争の激戦を物語る銃弾の痕跡、石垣周辺の構造などについての説明をおよそ300名の参加者が熱心に聞き入っていました。



銃弾の痕跡等の説明



鹿児島城跡出土遺物展示



パネル展示



能舞台跡の説明



金属探知機体験

遺跡公開！ 現地説明会開催

(公財)埋蔵文化財調査センター

東九州自動車道の建設に伴う発掘調査を行っている小牧遺跡（鹿屋市 11月7日）と春日堀遺跡（志布志市 12月5日）で現地説明会が開催されました。両遺跡とも天気に恵

小牧遺跡



花弁型住居跡（小牧遺跡）

春日堀遺跡



遺物の出土状況（春日堀遺跡）

土器の出土状況（小牧遺跡）



縄文時代早期住居跡（春日堀遺跡）



出土した石器（春日堀遺跡）

まれたため、数多くの見学者が訪れ、発掘された住居跡などの説明に耳を傾けていました。

小牧遺跡は、平成27年度から調査が行われ、これまでに縄文時代早期（約10,000～7,300年前）、縄文時代後期（約4,000年前）、そして古墳時代（約1,600年前）の集落と当時の遺物が多数出土しました。古墳時代の花弁型^{かべんがた}竪穴住居跡（花びらのような張り出しをもつ住居跡）からは、多くの土器片が見つかりましたが、赤く塗られたものや近畿地方の流れを汲むものなどもあり担当者の説明も熱を帯びていました。

また、縄文時代後期の調査区では、石斧が3点並べられたものや中央部を削って凹みをつけた軽石加工品、底がない状態で埋められた土器などを興味深そうに写真におさめていました。

春日堀遺跡は、平成26年度から調査が行われ、古墳時代の中頃から終わり頃（約1,600～1,400年前）と、縄文時代早期（約9,500～7,800年前）の集落跡が発見されました。

今回は主に縄文時代早期の調査の状況の説明でしたが、竪穴住居跡や連穴土坑^{れんけつどこう}、集石^{みづせ}などが所狭しとばかりに並んでいてその密度の濃さに目を見張ってしまいました。

軽石加工品（小牧遺跡）



縄文時代早期住居跡（小牧遺跡）



連穴土坑（春日堀遺跡）



一面に広がる遺物（春日堀遺跡）

当センターの見学は、土曜・日曜・祝日・年末年始を除き、毎日午前9時～午後5時まで、入館料は無料です。

なお、当センターのホームページは、鹿児島県教育委員会（<http://www.pref.kagoshima.jp/kyoiku/>）または、上野原縄文の森（<http://www.jomon-no-mori.jp>）からお入りください。

検索キーワード

上野原縄文の森

検索

クリック

埋文だより 第69号

発行日 平成28年2月26日
編集・発行 鹿児島県立埋蔵文化財センター
〒899-4318 鹿児島県霧島市
国分上野原縄文の森2番1号
TEL 0995-48-5811・FAX 0995-48-5820
URL: <http://www.jomon-no-mori.jp>
E-mail: maibun@jomon-no-mori.jp